

保護者等からの事業所評価の集計結果 (公表)

公表:令和 6 年 1月 18日

事業所名 にじいろ立石 保護者等数24(児童数) 20回収数 割合 83.3%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	14	5	1		
	②	職員の配置数や専門性は適切である	16	4	0	毎日看護師さんが数人居るので安心	今後も看護師配置は継続
	③	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされている	19	1	0		車椅子利用児童が大半でバリアフリーは必要設備
適切な 支援の 提供	④	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画が作成されている	16	4	0		
	⑤	活動プログラム が固定化しないよう工夫されている	16	3	1		
	⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	4	14	2	特に必要と思わないし安全を優先願いたい	感染症等の問題で出来る限り交流は現在避けている
保護者 への 説明等	⑦	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	17	3	0		
	⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができている	18	2	0		
	⑨	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	18	2	0		
	⑩	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	1	10	9	保護者会は必要と感じていない	今後皆さんに意見を聴取して開催の是非を考えて行く
	⑪	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10	10	0	忘れ物が何度かあり改善を望む	帰りの支度を余裕ある時間設定に変えて改善する
	⑫	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	17	3	0		
	⑬	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信している	13	7	0		
	⑭	個人情報に十分注意している	16	4	0		
非常 時等 の 対 応	⑮	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明 されている	13	6	1		
	⑯	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	14	6	0	どの様な訓練か不明	車椅子利用児童が大半のため災害時の訓練が重要としている(発信方法検討)

満足度	⑰	子どもは通所を楽しみにしている	18	2	0		
	⑱	事業所の支援に満足している	19	1	0		

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)」は、保護者等の皆様に「保護者等向け放課後等
 デイサービス自己評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

事業所における自己評価結果 (公表)

公表:令和 6年 1月 18日

事業所名 にじいろ立石

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	5	5	1	車椅子が年々大型化している為、広いスペース 確保に向けて近くの場所に移転場所を模索中
	②	職員の配置数は適切である	8	3	0	1日の基本人員構成は児童2名に対して1.5名 以上配置(内看護師最低2名配置)
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の 配慮が適切になされている	7	4	0	事業所内で車椅子移動のためバリアフリー
業務 改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル (目標設定と振り返り)に、広く職員が参画 している	7	3	0	
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアン ケート調査を実施して保護者等の意向等を 把握し、業務改善につなげている	7	4	0	
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	7	4	0	
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている	3	4	4	学校の先生に見学いただき支援内容のアドバ イスを受けている
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会 を確保している	7	4	0	肢体不自由児支援の共有をする為の研修をして いる
適切 な	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者の ニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	8	3	0	
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準 化されたアセスメントツールを使用している	6	4	1	
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	5	2	
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫して いる	5	6	0	肢体不自由児の活動で限られている中、楽しく 過ごす活動をスタッフ全員で提案している

支援の提供	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	5	0	長時間支援になる為、個別対応の活動プログラム作成としている
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	6	1	
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の内容や役割分担について確認している	8	3	0	利用者の担当と注意事項を打合せ実施
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	6	0	当日の利用者状況を出動していないスタッフ全員に伝わるよう改善が必要
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10	1	0	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	4	0	
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	5	6	0	
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	4	0	
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	10	1	0	学校との連携は主に個別の支援について都度共有を図って安全に過ごす事をしている
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	9	2	0	医療ケア児の支援は看護師チームが保護者・主治医より詳細な身体情報を受けて支援にあたる
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	5	3	未だ一部の新規児童でしか情報共有が出来ていないため、今後保護者の承諾を得て情報を受けて支援の密度を高める
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	5	6	0	要望のある施設には保護者の承諾を得て提供
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	7	1	
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	2	7	現在感染症等のリスクで活動は行わない
	㉗	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加している	4	3	4	
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	3	0	今後個別面談活動等をより有効にするため、看護師を主体とした話し合いを予定
㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	8	1		

保護者への説明責任等	③⑩	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	5	0	
	③⑪	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	5	1	窓口を個別担当として話しやすい環境作りをして改善していく(主に身体に係る事で看護師を選任)
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	3	8	保護者会の予定はなく、今後保護者からの要望により検討
	③⑬	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	9	2	1	
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	2	1	
	③⑮	個人情報に十分注意している	8	3	0	
	③⑯	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	4	0	
	③⑰	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	6	4	災害時に向けて地域との連携・理解が必要で、今後はどのような形で連携していくか課題としている
非常時等の対応	③⑱	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	5	4	
	③⑲	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	5	0	定期的に行っている訓練を発信が不足している為、訓練の様子を都度会報で知らせていく
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	4	2	社内外の研修を重要視して積極的に行っている
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	6	1	
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	3	0	
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	3	2	些細なことでも本部に報告が定着して、対策も早くできている

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。